寒風山の歴史　～草原ってなんだろう～

澤田佳宏（兵庫県立淡路景観園芸学校）

寒風山シンポジウム　2008/11/23＠五風

内容

（1）草原ってなんだろう？

（2）地域から，日本から，草原が消えてゆく.

（3）寒風山の草原の歴史（わりと最近の歴史）

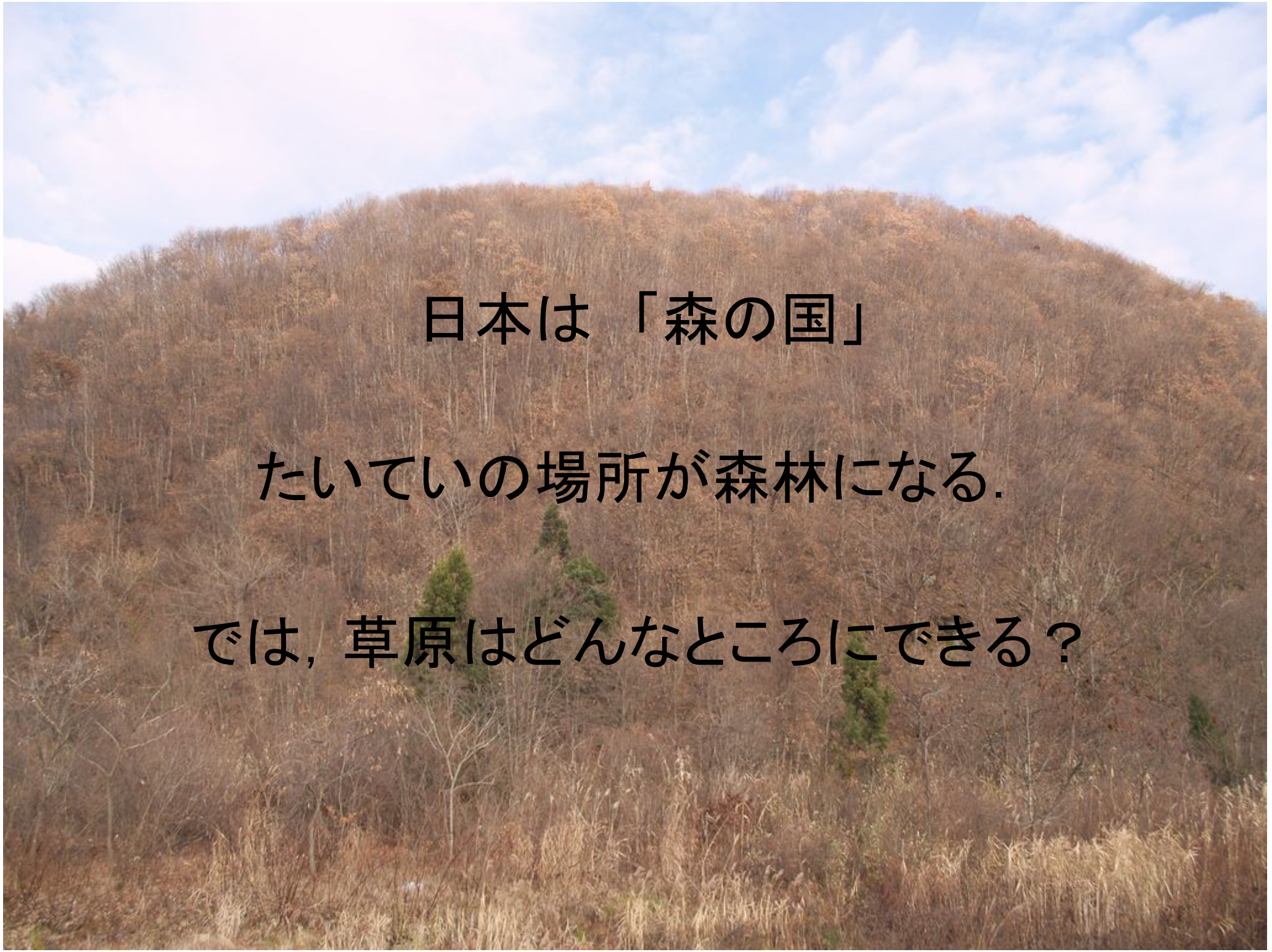
（1）草原ってなんだろう？

草原とは？

木が少なく，草がたくさん生えている所

それに対し

木がたくさん生えている所 → 森林



日本は「森の国」

たいていの場所が森林になる.

では，草原はどんなところにできる？

草原はどんなところにできる？

草原はどんなところにできる？

光合成をしにくい環境

何か足りない.

光

水

温度

養分

いやなものがある.

塩分

ストレス

草原はどんなところにできる？

光合成をしにくい環境

何か足りない.

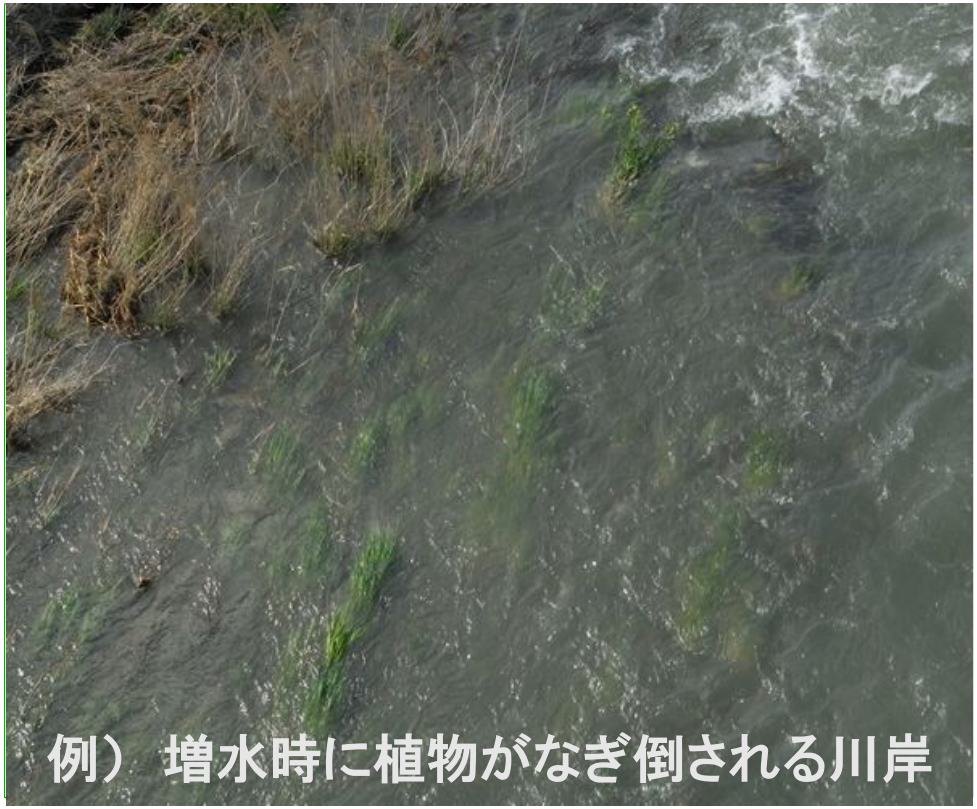
光　水　温度　養分

いやなものがある.

塩分

ストレス

植物体が，破壊される環境



攪乱

草原はどんなところにできる？

自然状態では

自然草原　：日本では特殊な立地にできる.

（自然のストレス・攪乱）

草原はどんなところにできる？

人が自然に働きかけて

生えてくる植物を人間が頻繁に破壊する.

刈り取り・火入れ

（人間による攪乱）

半自然草原　：　自然と人間が共同でつくる草原

寒風山の草原は？

自然草原
特殊な立地

半自然草原
人為攪乱と自然の共同

寒風山は，人為攪乱のもとで維持される半自然草原

（2）地域から，日本から，草原が消えてゆく.

半自然

日本は「草原の国」でもあった，かも知れない

ほんの少し前まで，たくさんの半自然草原があった.

- なぜ？

日本は「草原の国」でもあった，かも知れない

ほんの少し前まで，たくさんの半自然草原があった.

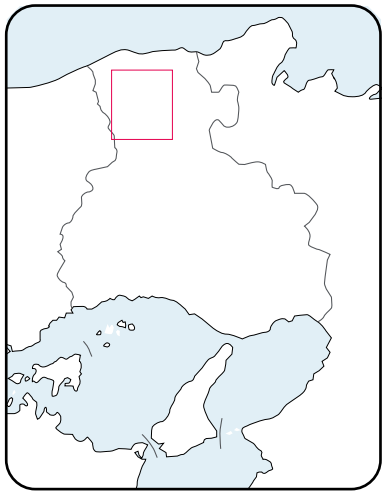
- なぜ？
  屋根材，牛馬の餌，刈り敷（肥料）などを採るため.

半自然草原が消えてゆく

- かやぶき　→　瓦など
- 牛　→　農業機械
- 刈り敷　→　化学肥料

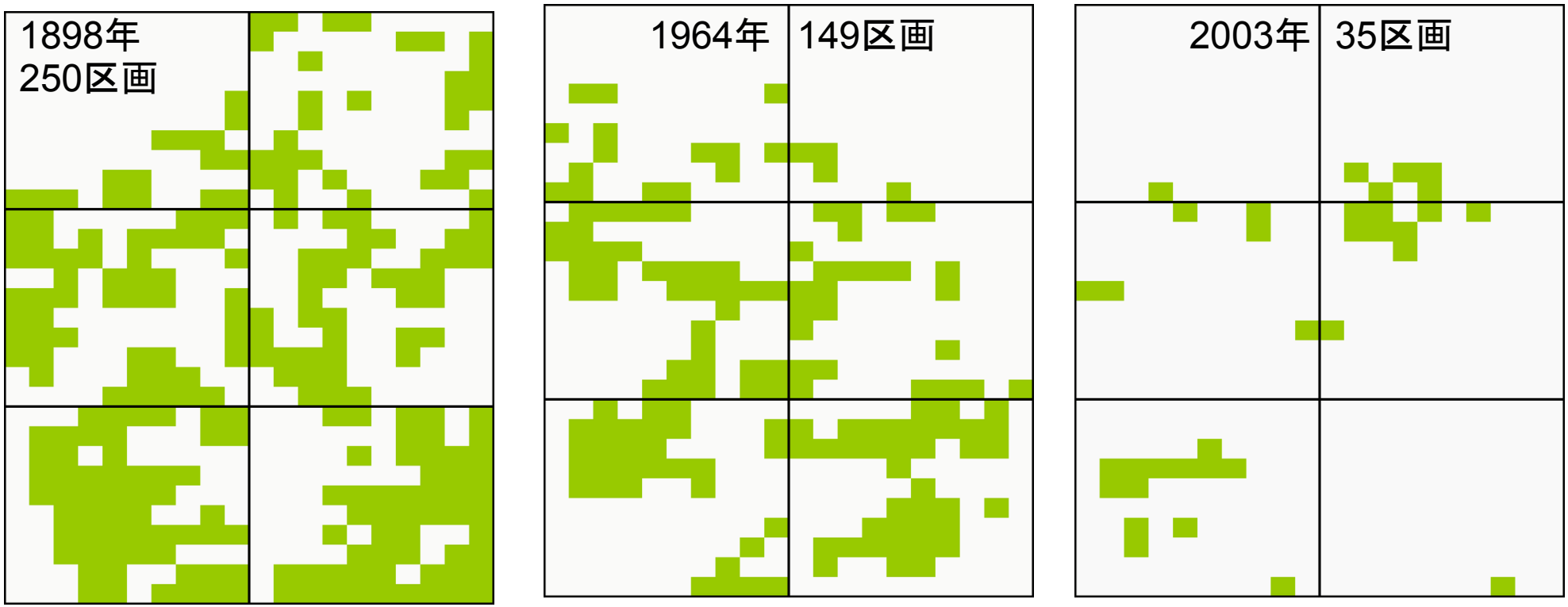
刈り取りや山焼きをする理由がない.
（燃料革命・高度経済成長期以降）

放置　→　森林へと遷移が進む.
転用　→　農地，植林地，その他



草原面積の減少　兵庫県但馬地方の例

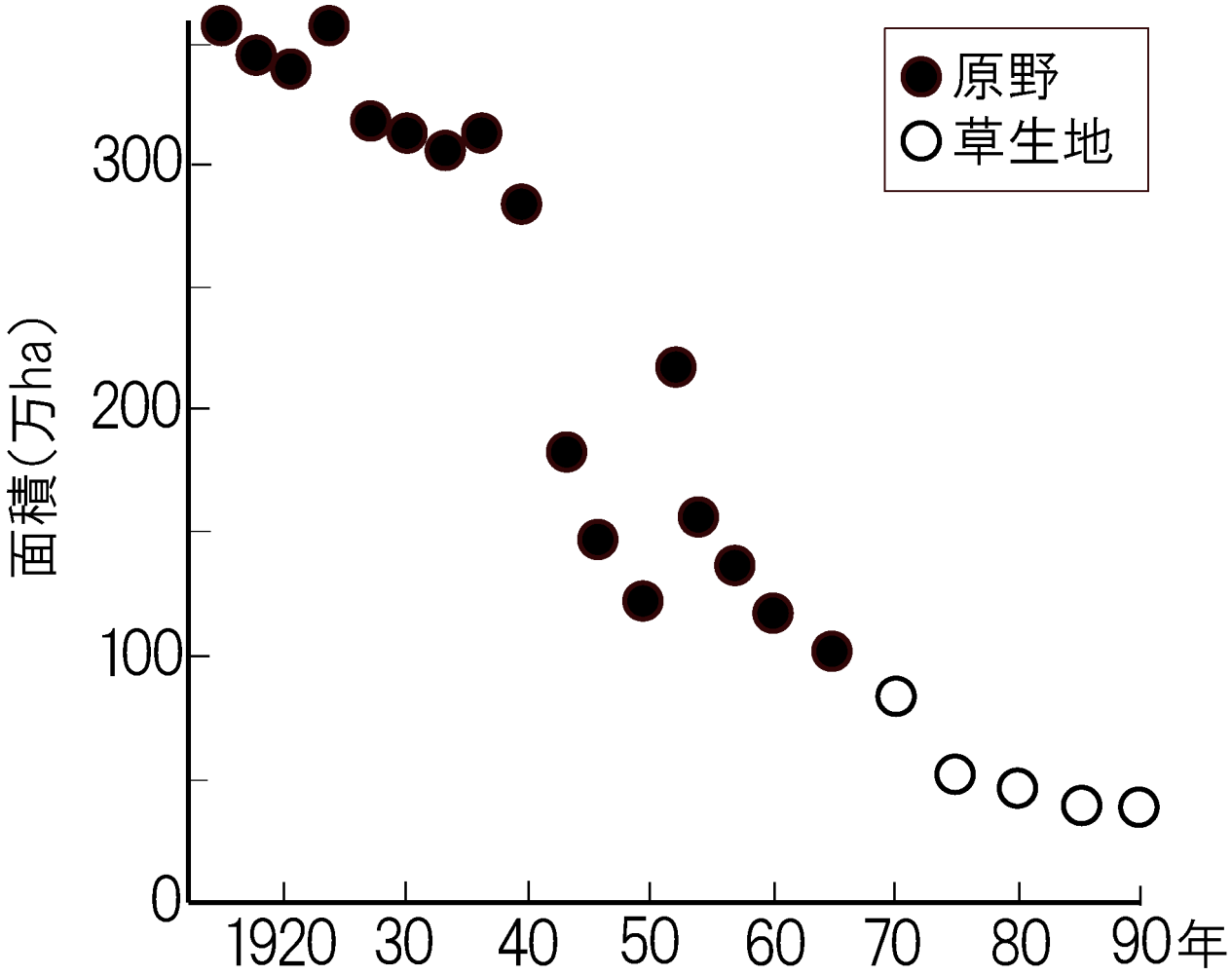
東西約20km，南北約30kmの範囲を600区画に区切る.
各区画の中に大規模な草原があるかどうかを地形図から判読.



かつては，いたるところに大面積の草原が広がっていた．20世紀の間に激減した.

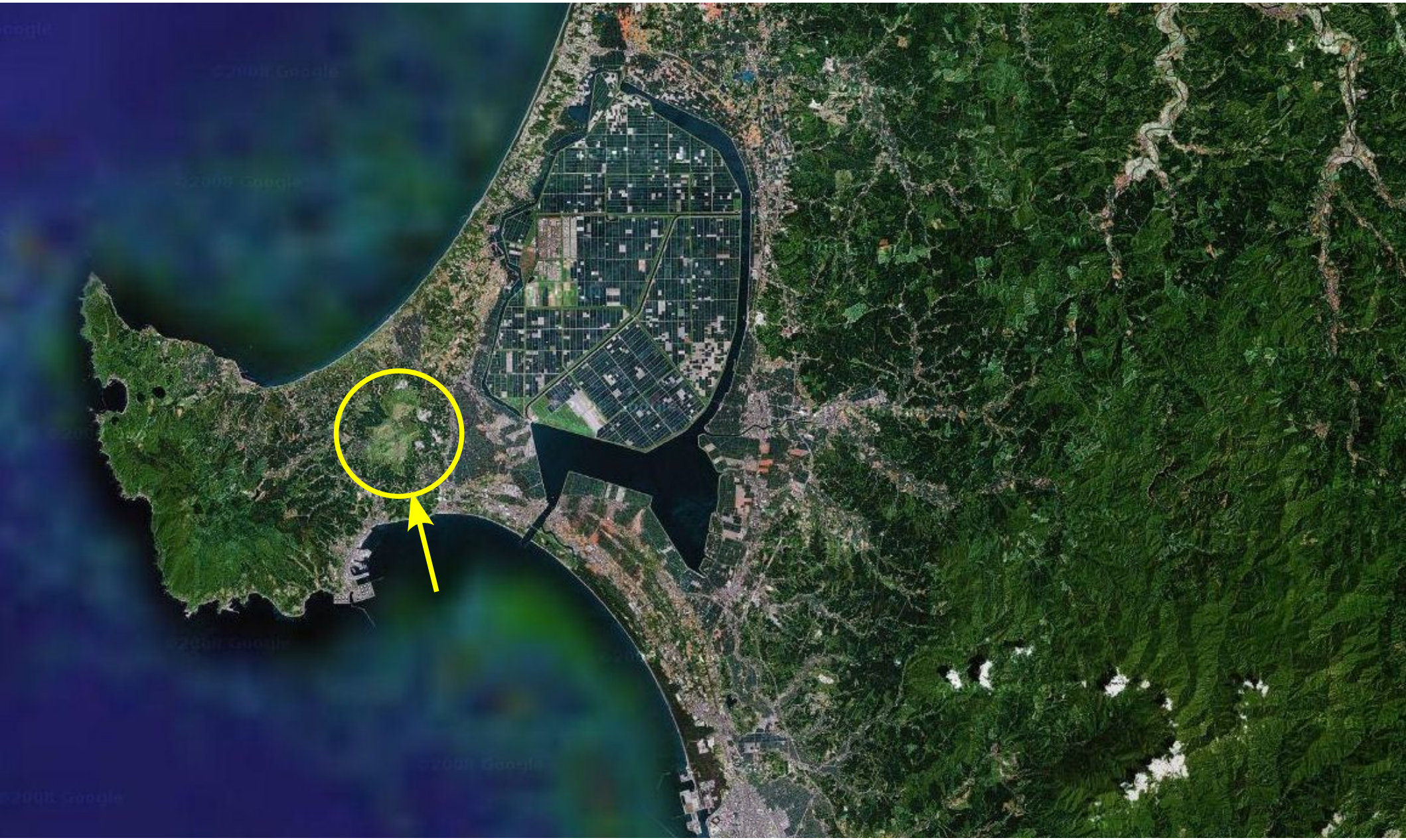
草原面積の減少

農林水産統計にみる全国の草原面積の推移



原野（草生地）の面積の推移.（岩波，1995より）

大規模な半自然草原は希少



寒風山は，いまや貴重な半自然草原.

“貴重な半自然草原”を
維持・再生するためには,
人為攪乱が必要.

平成15年（2003年）より
山焼きを実施.

さて，かつての管理（人為攪乱）の方法は？

- かつてはどのような管理をしていたのだろう.
  過去にも山焼きをしていたか？

- 景観の保全だけでなく,
  生物や文化の保全/継承という観点から.

（3）寒風山の草原の歴史（わりと最近の歴史）

（3）寒風山の草原の歴史　を調べる

目的：　草原景観を再生・保全するには，

◆以前は草原を，何のために使っていたか？

◆そのころは草原を，どうやって維持していたか？

◆草原の景観や管理方法は，どう変化してきたか？

調査方法：

◆地元の方々への聞き取り．

◆県立図書館で，秋田魁新報の記事を検索．

◆その他，文献調査．

→得られた情報を時系列で整理．

私の把握していることは，まだ少しだけです．

昭和30年代中頃（1960年頃）

寒風山の芝は冬期間の家畜の飼料として貴重なものだった．場所によって芝の良し悪しがあり，『集落では毎年くじ引きで各自が刈り取る場所を決め，お盆すぎから1週間がかりでかまで刈り取った．農業機械の導入が始まる昭和30年代の半ばまで続いた．

年に数回は失火による山火事が発生．山頂付近の良質な草に延焼しないよう，地元の青年会員たちは毎年春，山腹の草原を焼き払って防火帯づくりもしていた．

（秋田魁新報1998/7/18）

市観光商工課によると，昭和30年代まで農耕馬や肉牛用の牧草地を維持するため3月中・下旬に火入れが行われていた．

（秋田魁新報2002/11/28）

昭和30年代中頃（1960年頃）

寒風山の芝は冬期間の家畜の飼料として貴重なものだった．場所によって芝の良し悪しがあり，『集落では毎年くじ引きで各自が刈り取る場所を決め，お盆すぎから1週間がかりでかまで刈り取った．農業機械の導入が始まる

農耕用家畜の飼料を得る採草地

夏の刈り取り，春の火入れ

市観光商工課によると，昭和30年代まで農耕馬や肉牛用の牧草地を維持するため3月中・下旬に火入れが行われていた．

（秋田魁新報2002/11/28）

昭和40年代（1965～75年頃）

（30年くらい前は）寒風山はきれいな草原で，センブリがたくさんあった．小学校の児童がセンブリをあつめて売り，収益を教材の購入に充てたりもした．

（男鹿市職員への聞き取り　2004/3）

寒風山の中腹以上は広いススキ草原とシバ草地でおおわれており，寒風山独特のなだらかで壮大な開放景観を示している．

広い面積を占めるシバ草地の多くはススキ草原同様に火入れや，強度の刈り取り，放牧や人の踏圧などによって広げられ，維持されているものである．これらの人為的影響がきわめて強くなされた時にはシバ草地に，やや弱められたときにはススキ草原になると考えられる．

（宮脇昭　日本自然保護協会調査報告　1973/2）

昭和40年代（1965～75年頃）

（30年くらい前は）寒風山はきれいな草原で，センブリがたくさんあった．小学校の児童がセンブリをあつめて売り，収益を教材の購入に充てたりした

シバ，ススキの草原が存続している

火入れや，強度の刈り取り，放牧や人の踏圧などによって広げられ，維持されているものである．これらの人為的影響がきわめて強くなされた時にはシバ草地に，やや弱められたときにはススキ草原になると考えられる．

（宮脇昭　日本自然保護協会調査報告　1973/2）

昭和50年頃（1975年頃）から

寒風山では30年くらい前から山焼きが禁止になった。山頂付近に売店ができたためと聞いている。昔は毎年のように火がはいって草原が維持されてたのが，それ以降，だんだん藪のようになった。

（地元住民への聞き取り　2004/3）

過去の山焼きについてのちゃんとした記録は行政には残っていない。市や県がやっていたわけではなく地元の方が自主的にやっていたもので、県庁には記録がない。意図的でない火入れ（失火）もけっこうあったようだ．それでもここ20年くらいは火入れをやめているらしい。

（県職員への聞き取り　2004/3）

昭和50年頃（1975年頃）から

寒風山では30年くらい前から山焼きが禁止になった。山頂付近に売店ができたためと聞いている。昔は毎年のよう

山焼きがなくなり，ヤブ化がはじまる

図的でない火入れ（失火）もけっこうあったようだ．それでもここ20年くらいは火入れをやめているらしい。

（県環境部局職員への聞き取り　2004/3）

やぶ化で燃料蓄積？
山火事がときどき発生

昭和40年	1965年	5月	40ha
昭和51年	1976年	4月	80ha
昭和51年	1976年	5月	40ha
昭和53年	1978年	4月	130ha
昭和54年	1979年	11月	70ha
昭和63年	1988年	4月	10ha
平成 8年	1996年	6月	35ha
平成13年	2001年	4月	150ha
平成19年	2007年	4月	2ha

（秋田魁新報、男鹿市地域防災計画資料編ほか）

やぶ化で燃料蓄積？
山火事がときどき発生

昭和40年　1965年　5月　40ha

山火事は遷移の進行を引き戻しただろう.

平成 8年　1996年　6月　35ha

平成13年　2001年　4月　150ha

平成19年　2007年　4月　2ha

平成14年（2002年）まで

山頂付近・地震塚の斜面は年１～2回県が刈り取っている．小展望台下は市と売店ボランティアで年に2回（6月と9月）に刈り取っている．こちらはゴルフ場の芝刈り機を借りて実施．刈った草は運び出さない．

（地元住民への聞き取り　2004/3）

平成13年（2001年），緊急雇用事業によって大噴火口の刈り取りを実施．

今後，緊急雇用の予算が付かなければ刈り取りを継続するのは難しい．

（県職員への聞き取り　2004/3）

平成14年（2002年）まで

寒風山を丸ごと焼けないかという声が地元から上がっている．寒風山は芝草地に覆われた伸びやかな景観で知られるが，近年は雑木の生長が進んで一部はやぶ山と化しつつある．人為的に火をつけて雑木の侵食を食い止め，草地を維持しようというのが「火入れ」の発想．

（中略）

回転展望台のある山頂一帯や小展望台周辺は現在もきれいな芝山の姿を保っているが，実はこれも毎年夏に県が業者に発注して草刈りを行っているからこそ．国定公園の指定要件ともなっている開放景観を維持するため，年間約240万円をかけて18ヘクタールを刈り取っている．

（秋田魁新報　1998/7/18）

平成14年（2002年）まで

寒風山を丸ごと焼けないかという声が地元から上がって

山頂から小展望台にかけて限られた範囲を
刈り取りによって維持.
その他の大部分，やぶ化.

の指定要件ともなっている開放景観を維持するため，年間約240万円をかけて18ヘクタールを刈り取っている.

（秋田魁新報　1998/7/18）

平成15年（2003年） 山焼きの復活

雑木の生長が進み，一部やぶ山と化している寒風山の景観回復のため，山の一部を人為的に燃やす「火入れ」の計画が，男鹿市を中心に進められている.

（秋田魁新報 2002/11/28）

寒風山の景観回復のため，人為的に一部を燃やす「山焼き」が10日，約30年ぶりに同所回転展望台の北西に位置する大噴火口一帯51haで行われた.

（秋田魁新報 2003/4/10）

山焼きが数十年ぶりに復活した. おもわずなつかしくて出かけてしまった. ひさびさに火を入れてみたら，気分爽快でした.

（地元住民への聞き取り 2004/3）

平成16年（2004年） 山焼きの復活2年目

寒風山の芝草回復のため人為的に枯れ草を燃やす「山焼き」が28日，地震塚斜面27haで行われた.

昨年4月は30数年ぶりに大噴火口一帯で実施，ことしは2回目.「大噴火口一帯の調査の結果，ササが衰退して草丈が実施前の半分になっており，草原生植物の増加がみられた. 山焼きの効果は出ている」

（秋田魁新報 2004/3/29）

2004年4月の山焼き

昭和30年代中頃 （1960年頃）	家畜の飼料の採草地として 夏の刈り取り，春の山焼き
昭和50（1975）年頃	山焼き中止，やぶ化がはじまる
平成14（2002）年まで	限られた範囲の草原を刈り取りで維持 そのほかはやぶ化
平成15（2003）年～	景観維持のため， 夏の刈り取り，春の山焼き

目的は変化したが，人間による攪乱の時期・内容は類似

もっと昔は？　山焼きをしていた？

秋田藩　1713年の代官への指示

(日本林制史資料，水本2003より)

野火停止については以前から堅く仰せつけているところである.
春の間，村々は野火守を立ててきっと注意するように.
もし野火を出した場合は過料を仰せ付けると申し渡してあるが，近年あちこちで大きな野火が見えるにもかかわらず，村々からの申し出がない.
代官が調査をすることもあるという．今後は場合によっては，先年より重い過料を仰せ付けるからきっと守るようにせよ.
自焼きも以後は禁止する.
野火付けの者を発見した場合は搦め取り申し出ること.

秋田藩内の各所で山焼きがおこなわれていた

まとめ

- かつては，半自然草原は，日本中に広く分布.
  今日では，その役割を終えて，ほとんどが消失.
- 寒風山の草原は，もとは，家畜の餌を採る採草地.
  夏の刈り取り，春の山焼き.（～1970年代）
- 寒風山は放置すれば，藪へ，森林へと遷移.
  草原景観の維持には，刈り取りや山焼きが必要.
  2003年より山焼き.

寒風山の草原の歴史を把握する上での課題

採草地として利用していたころの草原管理について，その空間分布などを把握し，記録として残したい.
寒風山を利用していた人から直接お話を伺いたい.

寒風山の歴史　～草原ってなんだろう～

おわり